

サツマイモの病徴を紹介

サツマイモの病気には、サツマイモ基腐病^{かんぷびょう}だけでなく、つる割れ病や乾腐病^{かんぷびょう}、茎根腐細菌病^{くせこんふびょう}など、サツマイモ基腐病と類似した病気があります。それぞれの病気の特徴について紹介します。

防除対策では、「持ち込まない」「増やさない」「残さない」の3つの対策を徹底して行い、サツマイモ栽培に備えましょう。

問い合わせ先
役場農政課農政係
☎(86)1136[直通]

3つの防除対策

持ち込まない

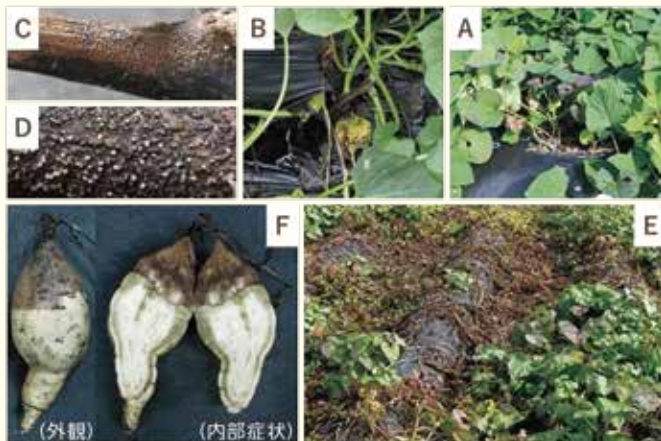
増やさない

残さない

【基腐病】

特徴をとらえた写真で、サツマイモの病気の症状を把握しておきましょう。

- A: 葉の変色
- B: 株元の黒変
- C: 柄子殻(分生子殻が形成された茎)
- D: 柄子殻から漏出した胞子(乳白色の水滴の中に多数の胞子が含まれる)
- E: 地上部の枯れ
- F: 腐敗塊根(品種「コガネセンガン」の外観と内部症状)



【茎根腐細菌病】

下: 茎の黒変
左: 腐敗塊根(品種「パープルスイートロード」の外観と内部症状)



【乾腐病】

右: 柄子殻(分生子殻)が形成された茎
左: 腐敗塊根(品種「こなしん」の外観と内部症状)



【つる割れ病】

- A: 地上部の枯れ
- B: 茎(株元の割れ)
- C: 茎の割れ
- D: 塊根(品種「コガネセンガン」のなり首の割れ)
- E: 外観健全な塊根(品種「コガネセンガン」の導管の褐変)

